

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等ディサービス にここサポート			
○保護者評価実施期間	2024/4/1		～	2025/3/31
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数)	20名
○従業者評価実施期間	2024/4/1		～	2025/3/31
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025/4/15			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・集団レク(音楽・運動・手先)・個別支援学習(お金・電卓・時計)、外部講師(書道・英語)による幅広いレクリエーションを展開。	・集団レクの中でも個別に職員が介入することで個々に寄り添った支援ができています。 ・個別支援学習では実体験を意識した、お金や時計の学習を行い自立に向けた取り組みをしています。	・集中を促す空間作りや仲間を意識し関わりが持てる環境構成など、発達の特徴に合わせた支援をしていく。
2	・保護者支援と対応。	・相談しやすい・話やすい雰囲気心掛けながら、積極的なコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に重点を置いている。 ・職員同士のミーティングを丁寧に行うことで、統一した対応ができています。	・引き続き、成功体験を保護者と共有し、より子どもたちの成長に携われるよう、連絡や情報共有を密に進めていく。 ・必要な支援が受けられるよう、行政や保健、医療など各関係機関との連携を強化していく。
3	・知識・技術向上への研修や取り組み。	・毎月オンライン研修を実施し、職員の知識の向上やスキルアップを目指している。また、発達のプロセスを見据えたステップでの課題設定ができるよう、専門的な知識や技術を維持・向上できるように努めている。	・職員全員が気軽に意見を出し合えるような関係を維持し、様々な視点で適切な支援や業務改善に繋がる議論を行えるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・送迎エリア外の利用希望者の対応が困難。 ・送迎エリア内でもすべての送迎が困難。	・送迎車と送迎人員、時間に限りがあるためご利用いただけない状況になっている。	・トワイライトの利用にご協力をいただき、より多くの送迎ができるようにしていく。
2	・子どもたちひとりひとりに合わせた生活空間の提供が難しい。	・クールダウンができる個室がなく、また室内で身体を動かせるスペースに限りがある。	・限られた空間中ではあるが、設備やレイアウトを見直しながら子どもたちが安心して過ごせる環境や空間を作っていく。
3	・保護者交流の機会がない。 ・他の事業所や学校等の交流や活動する機会がない。	・就労されている保護者が多く、また日曜日しか閉所日がないため、機会を作ることができていない。 ・現代の横の繋がりの希薄さからか、地域との連携も中々接点が見出せない状況だと感じている。	・今後、多くの要望があれば、保護者同士の交流ができる機会を作っていく。 ・地域の催し物への参加を積極的に行い、事業所の認知度を高めていくことから始めていく。